

令和元年度地域懇談会 結果概要

1 地域懇談会の目的

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び福島県復興計画の推進に向け、各地域で多様な立場の県民の方々から意見を聴取し、その意見を地域別の主要施策(第4章)をはじめ、政策分野別の主要施策(第3章)、重点プロジェクト(第5章)等の進行に活用する。

2 懇談テーマ

- (1)テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など
 (2)テーマ2(県全体の課題) 地方創生・人口減少対策に関する課題や取組、方向性など

3 開催地・日時

開催地域	日時・場所	総合計画審議会 出席委員
(1) 県北地域	[日時] 令和元年7月17日(水)13:30~15:30 [会場] 福島県庁北庁舎4階 災害対策県北地方本部室 [主催] 県北地方振興局 [意見発表者] ・齋藤 恵里子 (恵労働衛生コンサルタント事務所) ・樋口 高志 (暮らし茶屋風知草 店主) ・國分 久徳 (一般社団法人もとみや青年会議所 直前理事長) ・大槻 栄之 (J Aふくしま未来伊達地区モモ生産部会 副部会長) ・渡辺 あゆ美 (株式会社福島キャリアナビ 専務取締役) ・亀岡 さとみ (一般財団法人障がい者福祉支援研究所 代表理事)	樋口 葉子 委員 (ふくしま子育て支援ネットワーク 代表世話人) 今野 泰 委員 (日本労働組合総連合会福島県連合 会長)
(2) 県中地域	[日時] 令和元年7月11日(木)13:30~15:30 [会場] 郡山合同庁舎本庁舎3階 第1会議室 [主催] 県中地方振興局 [意見発表者] ・大和田 卓 (こぶろ須賀川 企画事業部) ・小澤 啓子 (農業法人ふるさと工房おざわふぁ〜む 取締役) ・久保田 健一 (一般社団法人Switch、株式会社Shift 代表) ・二瓶 一嘉 (株式会社二嘉組取締役副社長、福島県建設業協会青年部) ・芳賀 育実 (天栄村移住コーディネーター) ・渡辺 由紀 (ゆき星総合病院法人 こども事業部事務局長)	関 元行 委員 (一般社団法人福島県医師会 副会長) 小林 清美 委員 (一般社団法人福島県婦人団体連合会 会長)
(3) 県南地域	[日時] 令和元年7月8日(月)10:00~12:30 [会場] 白河合同庁舎 別棟大会議室 [主催] 県南地方振興局 [意見発表者] ・大楢 広 (叶や豆腐 有限会社大楢食品 代表取締役) ・小泉 美峰 (矢祭町役場事業課 地域林政アドバイザー) ・近藤 均 (株式会社フジ機工 代表取締役社長) ・清水 大翼 (ファームつばさ 代表) ・滝田 国男 (表郷いいもの開発協議会 会長) ・山本 光子 (一般社団法人あんだんて 事務局長)	轡田 倉治 委員 (福島県商工会連合会 会長) 橋本 直子 委員 (須賀川瓦新株式会社 代表取締役社長) 塩谷 弘康 委員 (福島大学 副学長)
(4) 会津地域	[日時] 令和元年7月8日(月)13:30~15:30 [会場] 会津若松合同庁舎 新館2階 大会議室 [主催] 会津地方振興局 [意見発表者] ・高橋 梢 (合同会社設計まちづくりテント 代表) ・阿部 進 (会津産業ネットワークフォーラム 代表) ・山際 博美 (株式会社山際食彩工房 代表取締役) ・金親 丈史 (一般社団法人IORI倶楽部 事務局長) ・佐々木 祐子 (ゲストハウスひととき 地域おこし協力隊0G) ・山口 巴 (特定非営利活動法人Lotus 理事長)	渡部 美加 委員 (NPO法人喜多方市民活動サポートネットワーク 事務局長) 伊藤 江梨 委員 (曉経営会計・伊藤江梨税理士事務所 代表)
(5) 南会津地域	[日時] 令和元年7月11日(木)14:00~16:00 [会場] 南会津合同庁舎2階 会議室 [主催] 南会津地方振興局 [意見発表者] ・浅沼 秀俊 (福島県建設業協会田島支部 支部長) ・大橋 史 (只見町公営塾「心志塾」) ・金子 政彦 (株式会社金子牧場 代表取締役) ・斎藤 幹子 (只見農産加工企業組合「げんき村」) ・関根 健裕 (関根木材工業株式会社 代表取締役) ・馬場 康徳 (特定非営利活動法人あたご)	松本 秀樹 委員 (福島県森林組合連合会 代表理事専務) 小野 広司 委員 (福島民友新聞株式会社 編集局長)

開催地域	日時・場所	総合計画審議会 出席委員
(6) 相双地域	[日時] 令和元年7月12日(金) 13:30~15:30 [会場] 南相馬合同庁舎 401会議室 [主催] 相双地方振興局 [意見発表者] ・伊藤 佳枝 (しんちの子育て考え隊 代表) ・管野 貴拓 (相馬市松川浦観光振興グループ 事務局長) ・一関 宙 (Next Commons Lab南相馬 チーフコーディネーター) ・高田 吉弘 (一般社団法人おおくままちづくり公社 事務局長) ・関 孝男 (株式会社あぶくま川内(いわなの郷)) ・古谷 かおり (木戸の小料理 結のはじまり 代表)	西崎 芽衣 委員 (一般社団法人ならはみらい) 岩崎 由美子 委員 (福島大学行政政策学類 教授)
(7) いわき地域	[日時] 令和元年7月5日(金)13:00~15:00 [会場] いわき合同庁舎4階 大会議室 [主催] いわき地方振興局 [意見発表者] ・芳賀 正道 (いわき農業青年クラブ連絡協議会 副会長) ・佐藤 フロンズ (いわき商工会議所青年部 前会長) ・鍛冶 真由美 (一般社団法人福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター 専門員) ・小沼 郁互 (小名浜まちづくり市民会議 会長) ・高梨 幸司 (特定非営利活動法人みんなのスーパーバイザー) ・鈴木 三則 (いわき市漁業協同組合 副組合長理事兼四倉支所長)	和田 佳代子 委員 (いわき地域環境科学会 副会長) 前澤 由美 委員 (NPO法人いわき緊急サポートセンター 理事長) 南雲 勇多 委員 (東日本国際大学経済経営学部 特任講師)

【主な意見】懇談テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

No	地域	発言者	意見等	分野
1	県北地域	意見発表者	子どもの発達障がいについては、できるだけ早期に専門家の診断を受けることが必要である。家族への支援を含め理解の下に、療育を受けることができれば、やがて社会に出て生活していく際の基盤となる。今後も注力をお願いしたい。	健康・医療・福祉
2	県北地域	意見発表者	発達障がいについて、事業所の担当者はなかなか必要な情報に辿り着けない。県、労働局、産業保健総合支援センターの連携による開催、開催予定表の分かりやすい場所への掲載、年度当初の会議や研修会での周知が効果的と考える。	健康・医療・福祉
3	県北地域	意見発表者	がん検診については、事業所で実施していない場合、市町村での受診が可能であるが、十分に活用されていない。法律に基づく事業所での検診は約90%の受診率であり、労働者のがん検診受診率は、地域と職域分野が連携して工夫すれば、もう少し上げることができると考える。事業所において、有給休暇を使って検診に行くのではなく、制度として行けるようにしてほしい。	健康・医療・福祉
4	県北地域	意見発表者	長野県の東御市では生活観光として、本物の生活をそのまま見ってもらう取組を行っており、これをぜひ福島でもやってほしい。外国人が2週間の休みを過ごす受け皿として、ヨーロッパの上質なお客を対象に、本物の生活を提供するというで押ししてほしい。	観光・交流
5	県北地域	意見発表者	地方都市の中心地区は比較的便利であり、空き家に入ってもらい、県として信頼ある改修業者を紹介し、県産材を使用してもらえればよいと考える。地元にお金も落ちる。夫婦で国民年金13万円で暮らせますよと提案できるし、無農薬の野菜を育てれば運動にもなる。	地域づくり
6	県北地域	意見発表者	移住者を出さない施策として、観光が有効と考える。海外からのお客を受け入れることで、自分の村に自信を持つことができる。地元に戻って農家民宿をやる方も出るかもしれない。	観光・交流
7	県北地域	意見発表者	農作業の一部をシルバー人材センター、共選所で働く人達による「援農隊」に手伝ってもらっている。長期間、安定的な仕事があることが中高年世代にとっての第二の職場として重要な位置を占めてきている。身近に作業をお願いできる方がいる環境が必要であり、このような環境、仕組みづくりは自治体や農業団体の役割と考える。	農林水産業
8	県北地域	意見発表者	果物の収穫など体験型ツアー等を通じて地域間交流や定住二地域居住の推進に取り組んできたが、この中で、自分たちは地元の良さをあまり知らないこと、本当はポテンシャルが高いことを実感した。交流は今でも続いており、経済的効果にも結びつく。	地域づくり
9	県北地域	意見発表者	県、各地域ではよい取組をしているが、外への発信力が弱い。県内でもかなりのフォロワー数を持っている方もいるので、そういう方や大学の同窓会組織と連携して、県の取組を広く伝えるなど、やり方を工夫し、魅力ある取組をもっともっと外に発信してほしい。	風評・風化
10	県北地域	意見発表者	障がい児のいる家庭では、特に母親の負担が重く、医療的ケアを必要とする場合の負担は更に重く、これに対して支援が必要。	健康・医療・福祉
11	県中地域	意見発表者	中心商店街のシャッター街化が問題。	産業・雇用
12	県中地域	意見発表者	地域でも稼げる、夢を実現できるという環境を作ることが大切。	産業・雇用
13	県中地域	意見発表者	地域にプレーヤーが少ないので、まずは人を育てていくことが必要。	産業・雇用
14	県中地域	意見発表者	地域特性・都市規模に合わせた施策が必要。	産業・雇用

15	県中地域	意見発表者	既設の道路をいかに有効活用し長く使っていくかという発想が必要。	インフラ復旧・整備
16	県中地域	意見発表者	統廃合された場合の学校の有効活用についても、検討が必要。	地域づくり
17	県中地域	意見発表者	移住者を求めるというものもあるが、むしろ、地元子ども達が残っていただけるように楽しい魅力ある地域づくりが必要。	地域づくり
18	県中地域	意見発表者	地元がお金を払うのではなく、大学生がお金を払ってでも来たい地域にしたい。	地域づくり
19	県中地域	意見発表者	グリーンツーリズムネットワーク協議会は、年一回集まって意見交換を行っているが、年1回ではなく定期的に勉強会を開いたり、相互に研修をしたりする機会があると嬉しい。	観光・交流
20	県中地域	意見発表者	過疎地域の活性化の鍵として、関係人口も取り上げてほしい。	観光・交流
21	県中地域	意見発表者	空き地や空き家の家賃が高い一方で、チャレンジショップの商品単価が安いこともあり、家賃ギャップが一つの課題。	産業・雇用
22	県中地域	審議会委員	街中の回遊性はどこでも課題。	産業・雇用
23	県中地域	審議会委員	子どもの農業体験は、食育にもつながる。	教育
24	県中地域	審議会委員	地元の人が地元の子どもの育成するという取組も非常に素晴らしいし大事なこと。	教育
25	県中地域	審議会委員	災害の時の避難道路、動線としてもインフラ整備は大切。	インフラ復旧・整備
26	県中地域	審議会委員	最近では核家族化が進んで、祖父母と同居する子どもも少ないので、多世代交流拠点は高齢者にとっても、子どもにとってもお互いに良いことなので、他の自治体でも廃校を活用できたらと思う。	地域づくり
27	県中地域	審議会委員	仕事をしながら子どもを預けられる環境整備は大事。	結婚・出産・子育て
28	県中地域	審議会委員	小学生から高校生までいろいろな体験をさせることは非常に大事。	教育
29	県南地域	意見発表者	地域の資源とは観光とか物産以上に人であり、その人に対してクローズアップしていくことが、ひいては地域をPRすることになる。	地域づくり
30	県南地域	意見発表者	地域の元気というのは商店街が影響しているので、商店街を活性化させるような施策が必要。	産業・雇用
31	県南地域	意見発表者	新しい物を持ってくるのも重要だが、地域にある物を活かして新しい物を作り上げるという形も重要。	産業・雇用
32	県南地域	意見発表者	森は生きており人の手が入ることで活かされるので、民間が入っていない林業エリアでは、行政が介入をして林業を活性化する体制が必要。	農林水産業
33	県南地域	意見発表者	航空宇宙関連の部品加工に本格的に参入する計画も進めている。福島県内にサプライチェーンを作って仕事を受注したい。	産業・雇用
34	県南地域	意見発表者	補助金の申請が難しい。取るまでの時間もかかるし、その間仕事も休まなければならない。また、ハードに対する補助がすごく少ない。	農林水産業

35	県南地域	意見発表者	小規模の生産者は、生産だけでなく配送も一人でやらなければならないが、地域の他の小規模生産者と一緒に配送するとか、物流やっている運送会社や個人商店も連携して、配送できる人に依頼して、配達してくれた人に配達料を支払うような仕組みが整備されるとよい。	農林水産業
36	県南地域	意見発表者	小学校での農業体験はご年配の方がされることが多く、自分も農業は高齢者がやっているものだと思っていた。若者がちゃんと稼げて私生活も充実して楽しく農業やっていることを小中学生に見せられたら、農業を選択肢の1つになり、地域に残ってくれる可能性も広がっていく。	農林水産業
37	県南地域	意見発表者	就農にはお金がかかるが、農業を辞めた方の農業機械を空家バンクのように把握しておいて、県内市町村で情報共有し借りられるような仕組み作る。また、機械の整備も農業を辞めた方に教えてもらえると良い。	農林水産業
38	県南地域	意見発表者	お祭りなどの観光に来たときに、巻き込んで体験させる等、地域のことを都会の人にとっての自分事にさせ、福島県のファンを作ると自らPRしてくれる。	観光・交流
39	県南地域	意見発表者	農業が年々高齢化していつて担い手が少なくなってきたり、何とかしていかないと、気づいたときには手遅れということになる。新しい農業の形態を作らなければならない。	農林水産業
40	県南地域	意見発表者	現在、農業研修を無報酬で受け入れているが、きちんと指導や研修をするにはそれなりの費用はかかるので、受入体制の整備に対する支援が必要。	農林水産業
41	県南地域	意見発表者	ユースプレイス事業しているが、ニート・引きこもりは若者だけでなく高齢化してきており、40代後半の方のご家族が相談に来る。高齢化してきている引きこもりの方たちのへ支援体制が手薄であり支援が必要。	健康・医療・福祉
42	県南地域	意見発表者	外国人に対する居場所の充実についても支援が必要。	地域づくり
43	県南地域	意見発表者	地域懇談会に20代前半の人がいてもよいのではないかと。これから未来を担っていく若い人たちの意見を吸い上げるべき。	その他
44	県南地域	意見発表者	異業種の方たちが交流できる体制づくりも必要。	産業・雇用
45	県南地域	審議会委員	地域づくりは地域の資源をいかに活用することがポイント。土地や家だけではなく、使われていない資材や機械、今まで蓄積されてきたが継承されない技術など、活かすべきものはたくさんある。	地域づくり
46	県南地域	審議会委員	情報を外に対して、また次の世代に対していかに伝えていくか。まだまだ知られていない情報があるとか相手方によって手段を変えていかないといけないとか伝え方と内容とを検討すべき。	その他
47	会津地域	意見発表者	具体的に動き始めるにはインセンティブが必要である。ハード、ソフトともに支援の仕組みを充実してほしい。	地域づくり
48	会津地域	意見発表者	サポート事業は報告が大変と聞いている。最初の資金支援など、手続きが複雑ではないスタート時の活動支援メニューを増やしてほしい。	地域づくり
49	会津地域	意見発表者	定住・二地域については、都市部には地方出身者が多い。子育て世代(30～40代前後)は老後どうするかをいろいろ考え始めている。どの県も市町村も同じような定住施策を展開しており、決め手がない。夏休みの一週間や一ヶ月など短期で自由に過ごし、将来を選ぶための体験ができるようなプログラムを提供してみてもどうかと思う。	定住
50	会津地域	意見発表者	いま移住や定住を検討している10組より、将来の候補者(予備軍)1000組をターゲットとすることも有効であると考え。	定住
51	会津地域	意見発表者	製造業においては、生産性の向上が重要課題であり、Industrial4.0(オートメーション化、デジタル化、コンピュータ化等)やsociety5.0(IoTやAIをはじめとする超スマート社会)など、新たな時代の流れを組んでいくことが必要。	産業・雇用

52	会津地域	意見発表者	会津若松市AiCTにより受け皿ができて、海外企業との仲介なども可能となってきているが、まさにコネクテッド・インダストリーズ(データを介して、人、モノ、技術、機会などが企業、産業、世代を越えてつながること)が大切である。	産業・雇用
53	会津地域	意見発表者	ロボットコンテスト(小中高大一般まで)も12年目となるが、県のものづくり人材育成事業を活用してスタートした事業であり、現在は自走して継続している成功例のひとつである。	産業・雇用
54	会津地域	意見発表者	会津地域の製造業でも急激な人材不足になっており、大企業ではまだ若手人材も潤沢であるが、中小企業は人材確保が課題。	産業・雇用
55	会津地域	意見発表者	外国人の技能実習生など実習の場や、技能検定などの特定技能人材の育成など、品質・安全、生産性の向上に向けた取組が求められている。	産業・雇用
56	会津地域	意見発表者	山形県では、ものづくりインストラクター育成プログラムがあり、本県でもものづくりの人材育成にもっと力を入れてほしい。	産業・雇用
57	会津地域	意見発表者	食から会津の魅力発信ということで、地産地消や6次化などに取り組んでいるが、まずは一次産業である農業が儲かる農業にしていけることが必要。	農林水産業
58	会津地域	意見発表者	6次化商品開発においては、売れる商品を作るにはお金も時間もかかるため、地域できちんと消費される仕組みづくりが必要。	農林水産業
59	会津地域	意見発表者	学校給食は地産地消30%まではきているが、福祉・病院食については3%にとどまる。野菜を6ヶ月保存できるように加工し、現在福祉施設での利用拡大を進めているが、使ってもらえる場所があれば、きちんとお金が地域で回ることになり、新規就農も増える。	農林水産業
60	会津地域	意見発表者	農業の担い手については、高齢化が進んでおり、農産物は作れるが運べないなど、集める人が必要であり、そういった流通のシステムづくりが必要。	農林水産業
61	会津地域	意見発表者	古民家再生や地域の住まいづくり活動に取り組んでいるが、圧倒的に40～60代は多いが、20～30代が少ない。	定住
62	会津地域	意見発表者	奥会津地域においては、高等教育機関(高校、大学等)がないため、若者の流出が深刻である。学校がないなら、そういった学びの場を作ればいいのかと、デンマークのフォルケホイスコーレの取組(大学生～20代におけるモラトリアム＝人間の発達を可能とする準備期間)に注目している。	定住
63	会津地域	意見発表者	三島町では高卒で地域おこし協力隊で活動している若者や、大卒でNPOとして起業した若者など、若者がチャレンジできる場にもなっていると感じている。地域で若者を育てる、地域で若者をサポートする環境づくりが大切ではないかと考える。	定住
64	会津地域	意見発表者	地域によっては、消防団員やPTA、交通安全協会、地域活動団体等、若者がコミュニティにおける義務が負担になるという話もある。	定住
65	会津地域	意見発表者	過疎地域こそ、新しいことに取り組んでいるのではないかと感じている。世界をみれば少人数でも豊かな国はたくさんあり、人口密度では計れない。コミュニティの維持、限界のラインがどこであるのか、検証することも有効ではないかと考える。	地域づくり
66	会津地域	意見発表者	会津はとにかく資源が豊富であるがゆえに、焦点が絞りが切れていない。	地域づくり
67	会津地域	意見発表者	地域おこし協力隊を経て、空き家をリノベして起業したが、地域によって移住者を受け入れるマインドにバラツキがあると感じる。西会津町の当該エリアは越後街道の関係から外から戻ってきた人が多いことから、若い人が移住しやすい環境が整っている。	定住
68	会津地域	意見発表者	実際に移り住む集落とのマッチングが重要で、地域の特性をきちんと伝えるコーディネーターが必要。	定住
69	会津地域	意見発表者	空き家バンクについては、きちんと適性価格を再評価すべきと考える。お金を持ったシニア層はよいが、資産のない20～30代においては、適性物件(不動産)を見つけられるかどうか大きなポイントである。	定住

70	会津地域	意見発表者	移住者を受け入れる側(地域)にもメリットがあること(家賃収入により固定資産税程度は賄えることや、新しい風(移住者)により地域が活性化することなど)を伝えることも必要であると感じている。移住を受け入れている人の体験談などを伝える機会があるとよいと考える。	定住
71	会津地域	意見発表者	いまは二拠点だけでなく、多拠点で活動する人も増えているので、他の県ではやっていない多拠点をターゲットに事業展開するのもひとつである。	定住
72	会津地域	意見発表者	地域おこし協力隊については、任期3年は短い。生活する、生業を見つける、起業するということを決められなければ移住定住には繋がらない。任期満了後の協力隊の活用については、しっかり考える必要がある。	定住
73	会津地域	意見発表者	安心して子どもが育てられない、子どもが産めないという現代社会において、さらに晩婚化、晩産化、離婚、一人親、子どもの自殺、児童虐待など問題は複雑化している。	結婚・出産・子育て
74	会津地域	意見発表者	女性の社会進出や多様化する業務体系などから、土日祝日の保育園はさらに必要性が増している。その一方で、保育園や保育士不足、保育の質の低下などが問題視されており、保育現場はかなり深刻な状況である。企業型保育園は1割は廃園に追い込まれていると聞いている。	結婚・出産・子育て
75	会津地域	意見発表者	核家族化やストレス社会など、子育てできない(子育ての仕方がわからない)親が増えている。まず親を育てることが必要。	結婚・出産・子育て
76	会津地域	意見発表者	地域づくりはまさに人づくり。会津に恩返しできる人づくりをしていくことが必要。	結婚・出産・子育て
77	会津地域	意見発表者	行政がやるべきこと、民間ができることがそれぞれある。民間ができるところはしっかりやる。それによって救われる人がたくさんいる。もっと民間を活用してもらいたい。地道に活動している個人、団体の支援をしっかりとお願いしたい。	結婚・出産・子育て
78	南会津地域	意見発表者	地域の建設業界も変わってきており、大きな公共事業の受注一辺倒ではなく、今は土砂災害の早期復旧や、道路の維持管理などといった地域の人々の暮らしを守る仕事が多くなってきている。	インフラ復旧・整備
79	南会津地域	意見発表者	公共事業が減ってきた影響で業界の就業人口が減っていたところに、H23の新潟・福島豪雨災害が起り、とても対応できない状況であったが、地域の業界全体で対応し、なんとか乗り切った。	インフラ復旧・整備
80	南会津地域	意見発表者	現在、就業人口が減り、特にベテランの技術者が少ないことが大きな課題。仕事はあっても受注できない状況がある。	産業・雇用
81	南会津地域	意見発表者	この地域の学校は普通課程であり、昔と違って専門課程がないため、採用してから職員の育成に時間とコストがかかるのが課題。	産業・雇用
82	南会津地域	意見発表者	幹線道路の整備やJR只見線の全線復旧に向け、町は転換期を迎えており、観光・交流人口の拡大を目指している。	観光・交流
83	南会津地域	意見発表者	観光客の受入先がなく、断ることも多々あることが課題。その一方で、地域性なのか新規参入の障壁が高く、客の奪い合いになるという反発の声もあり、新しい民宿を開業するのが難しい。	観光・交流
84	南会津地域	意見発表者	異業種で頑張っている人と連携していけば可能性が大きく広がる。これから農業は様々な分野で活躍できるのではないかな。	農林水産業
85	南会津地域	意見発表者	中山間地域であっても、農業に興味をもってくれる人は多くいるため、豊かな自然と共に上手にPRしていけば可能性は大いにある。	農林水産業
86	南会津地域	意見発表者	道路等の基盤整備が進み、人が来やすい環境にもなっているため、観光誘客に力を入れ、自分たちの活動をPRしながら交流を深めたい。	観光・交流
87	南会津地域	審議会委員	酪農のような比較的農地の面積が広い農業は、農業者が孤立しがちな面があるが、インターネット等の情報ツールを活用してうまくやっていけばよい。	農林水産業
88	南会津地域	意見発表者	野菜を買いに来る客の意識が変わってきており、今までは朝の採れたての野菜であれば売れたものが、有機野菜など付加価値を求める客が増えている。	農林水産業
89	南会津地域	審議会委員	町内で採れる有機栽培の野菜を民宿の料理の材料として提供することで、「健康な民宿」として売り出すのもおもしろい。	観光・交流

90	南会津地域	意見発表者	大手の木材業者の価格攻勢には対抗が難しいため、南会津の山から見直して、地域の事業者が連携した取組が必要。	産業・雇用
91	南会津地域	意見発表者	地元産の木材を使ってもらう取組が必要であり、木材の地産地消のほか、海外も視野に入れ、展示会などにも参加し広く周知活動を行っている。	産業・雇用
92	南会津地域	意見発表者	地域性を出して売り出すために、商品を流通させる際には必ず名称に「南会津」と付けたり、SNSで何か発信する際も、必ず「南会津」とハッシュタグを付けている。	産業・雇用
93	南会津地域	審議会委員	観光資源としてだけではなく、地域の若い人の拠点づくりを行うのもよい試みである。	観光・交流
94	南会津地域	意見発表者	通所型施設として、障がい者の方が通所しているが、その最終目標は一般就業であり、雇用の場においては障がい者枠をつくってほしい。	健康・医療・福祉
95	南会津地域	意見発表者	異業種とも連携を図り、6次化商品づくりを進めるなどの活動を通して、企業とのネットワークを大切にしていかなないと、今後の福祉は厳しくなっていくのではないかと。	健康・医療・福祉
96	南会津地域	意見発表者	バイオマスは、たとえ小さな活動でも大きなビジネスになる可能性がある。	産業・雇用
97	南会津地域	意見発表者	何事にも大事なものはネットワークや地域の結び付きである。	その他
98	南会津地域	意見発表者	障がい者の雇用はあまり芳しくなく、知的障がい者の雇用は特に難しい。	健康・医療・福祉
99	相双地域	意見発表者	新地町は津波被害があったが、原発の被害はそれほど大きくなかった地域。保育所や小学校で提供される野菜や魚は検査されたものであるため、食の安全に関しての心配はあまりなかった。	結婚・出産・子育て
100	相双地域	意見発表者	津波被害があったことで、被災した場所に行きづらいつ感じているお母さんが多い。子供を長い間海に行かせていない。どうやって海で遊んだらいいのか分からない子供もいる。	結婚・出産・子育て
101	相双地域	意見発表者	子育てに関わる大人が笑顔になると子供が笑顔になり、それが地域の元気につながると信じている。	結婚・出産・子育て
102	相双地域	意見発表者	震災前は松川浦の漁港に水揚げされる魚を目的として来る観光客が多かった。冬場はズワイガニが獲れ、とても賑わっていた。現在、漁業は試験操業のまま。魚を観光資源としてなりわいをしていくにはまだまだ条件が整っていない。カニの水揚げはほぼゼロ。	観光・交流
103	相双地域	意見発表者	観光で収入を得ていかなければならないということで、ここ数年はスポーツでお客様を呼び込もうと市内のサッカー場を活用した合宿や大会を誘致している。	観光・交流
104	相双地域	意見発表者	松川浦は魚だけではなく、他の資源も磨き上げていく活動をしている。今後は震災後の相馬の姿を見せるツーリズムも観光資源となる。	観光・交流
105	相双地域	意見発表者	海水がしょっぱいということを知らない沿岸部の子供もいる。サーフィンを小さい頃から子供たちに親しみさせ、海への愛着につなげる活動をしている。	地域づくり
106	相双地域	意見発表者	6月末現在、南相馬市小高区は人口が3600人。帰還する流れが止まらないよう、移住や二地域居住を推進していきたい。	定住
107	相双地域	意見発表者	喫緊の課題は労働力。人が少ない。物理的に人を増やすためにどうしていくかが課題。	産業・雇用
108	相双地域	意見発表者	環境省による除染作業の時に家屋の解体も進めており、物件がない。このため、放置したまま8年経過した家屋を直して貸すという取組はまちづくり会社として現実的でないという事実が浮き彫りとなってきた。	避難者支援
109	相双地域	意見発表者	まちづくり会社で町内視察事業も行っている。ある団体は相馬に泊まりたいというところもあった。復興ツーリズムの可能性を感じている。	避難者支援
110	相双地域	意見発表者	2013年に川内村に移住してきた。最近ではインフラ整備も進み、富岡へのアクセスもスムーズになったと感じる。	インフラ復旧・整備
111	相双地域	意見発表者	「都会の生活は田舎が支えている」と感じている。エネルギー供給だけでなく、食であったり、都会にはない安らぎがある。	定住

112	相双地域	意見発表者	居酒屋に集う復興事業の作業員さんから聞く話では、心や体のストレスを抱えているということ。眠れないという人もいる。復興のためのインフラ工事など、通常の工事では無い状況(チーム体制・指示)に身を置いているので、大きなストレスとなっているようだ。	健康・医療・福祉
113	相双地域	意見発表者	移住してくる若者を見て、檜葉に移住してきたときに住まいに困った自身の体験から、シェアハウスを運営している。空き家利活用には興味がある。	定住
114	相双地域	意見発表者	空き家の貸し主からは「知り合いには貸しても良い」というケースが多い。空き家の借り主と貸し主を繋ぐ役割が必要。	定住
115	相双地域	意見発表者	地元において地域を守ってきた人からすると、単に人口が増えるのではなく、地域に愛着を持った人が増えることを希望している。	定住
116	いわき地域	意見発表者	「ふれあい野菜教室」等での農作物の栽培管理を通じて、産業としての魅力を伝えると同時に農業へ関心を持ってもらうよう働きかけることが大事。線量検査などの数字だけではない体からの感覚として、食の安全安心を体験してもらい、地産地消の意識を楽しみながら身に付けてもらえるよう今後も継続していくことが必要と考えている。	農林水産業
117	いわき地域	意見発表者	空き店舗が出て、誰か代わりに起業しないか聞いても、手を上げる人がいない。手を上げる人を育てるという意味で、小学生のうちからビジネスや起業するというのを学んでもらい、それが将来自分で新しいものを作りたい、起業したいという風になれば良い。今後、県や市などとコラボして様々な機会を作っていくことが必要と考えている。	産業・雇用
118	いわき地域	意見発表者	震災後8年が経過し、残り数年で復興・創生期間が終了するなかでも、避難生活の長期化等により潜在化している生活困難を訴える住民をピックアップし、どのように地域で支援していくのか引き続き検討していく必要があるのではないか。	健康・医療・福祉
119	いわき地域	意見発表者	交流人口をどう増やしていくか、その交流人口が増える中で移住をしてきてもらいたい町の定住人口につながると良いと考えているが、それだけの結果が出る、選ばれる地域にするには、地域に住む方々にとっても魅力あるまちにならないといけないと考えている。	地域づくり
120	いわき地域	意見発表者	一般的にはまちの中心はどうしても駅ということになるが、小名浜には鉄道がない。小名浜港からJRのいろいろな地域へ出て行くことが出来ると、企業誘致や今後の人口の増加にも繋がると考えており、地域の方々の高齢化へ向けた交通手段の確保という点においても公共交通機関は大切。	インフラ復旧・整備
121	いわき地域	意見発表者	昨年度末に復興公営住宅の自治組織が17か所すべて設立されたが、今後の課題はどのように自治組織を存続させていくかということである。区長や役員をしてきた方ばかりではないため、どのように運営していくかが理解されていない状況の自治会もあり、そうしたところへの支援が必要。	避難者支援
122	いわき地域	意見発表者	復興公営住宅の空き部屋が増えていることについて、今後どのように利用していくのか、また、それにより住んでいる方の共益費の負担増となっているため、どう維持管理していくかが課題。	避難者支援
123	いわき地域	意見発表者	復興公営住宅の入居者は、これまでは原子力災害に関する避難者だけが対象だったが、津波被害などのいわき市の方も対象になり、様々な方が入居することを考えると、新たなコミュニティの形成が課題。	避難者支援
124	いわき地域	意見発表者	高齢化について、被災者支援というより今後一般的な高齢化問題に変化していくと思う。買い物支援や医療関係、福祉施設などのハード面なども徐々に出てくる課題。行政の政策に期待しながら、被災者支援に取り組む必要がある。	避難者支援
125	いわき地域	意見発表者	H24年から始まった本県の試験操業は年々拡大し、H30年の水揚量は4,000トンとなったが、震災前の15%に留まっている。水揚げ量30%への増加を目標に、9月から新たに久之浜魚市場を開場することで、更なる水揚量の増加に取り組んでいくことが必要。	農林水産業
126	いわき地域	意見発表者	県のモニタリング調査、漁協の自主検査で水産物の安全性は確保されているため、おさかなフェスティバルや首都圏での販売など県内外のイベントでPR活動を行い、風評の払拭に向け、継続して取り組んでいくことが必要。	農林水産業
127	いわき地域	意見発表者	田人の公共交通機関について、地域の人が登録すると無報酬でドライバーをするというシステムができた。いい面もある一方、足があることによって市街地に行かれてしまって地元商店の売り上げが落ち、経営危機に陥るなど、地元の方が苦しむ側面もある。バランスよくやらないと軋轢が生まれることになりかねないとする。	インフラ復旧・整備

【主な意見】懇談テーマ2(県全体の課題) 地方創生・人口減少対策に関する課題や取組、方向性など

No	地域	発言者	意見等	分野
1	県北地域	意見発表者	県民の健康改善には、行政が行う地域保健と事業者が行う職域保健の両方の向上が必要がある。行政主催の会議は、年数回の開催、内容が現状・活動報告等が主で、関係者が繋がっているという実感を持ってない。ワーキンググループによる目的を絞った意見交換を行った上で会議を開催するなどやり方の工夫が必要である。	健康・医療・福祉
2	県北地域	意見発表者	移住希望者に対して、「本物の暮らしがあるから」と伝えたい。行政が十分に繋がられていないこと、マッチング不足が課題と考えており、移住希望者の気持ちの分かる、優れた感覚、引き出しを持った移住相談員が必要である。自分の経験から、ファーストタッチが何より大切であると考えている。	地域づくり
3	県北地域	意見発表者	生業に自信をなくしている方がたくさんおり、こういう方が積極的に前に出て行けるよう、発信する場の環境整備などに取り組む必要がある。	産業・雇用
4	県北地域	意見発表者	子育て支援は、若い世代に受け入れられやすい取組であり、子育てに力を入れている行政に対して悪い印象は持たないと思う。子育て支援に特徴のある部分について、補助率を大きくするなどといった施策があったらよいと考える。	結婚・出産・子育て
5	県北地域	意見発表者	男性不妊は光の当たりづらい部分であり、県として、ぜひ光を当ててほしい。地方創生、人口減少体制に繋がる取組であると考えている。	結婚・出産・子育て
6	県北地域	意見発表者	地域で暮らしていくには人との繋がりとともに、買い物環境も必要である。買い物は近所の方と話をする場でもあったし、誰も、人間の欲求として買物をしたという願望がある。行政にばかり頼る訳にはいかないが、集落に何か商店に代わるような機能をできないかと考えている。	その他
7	県北地域	意見発表者	県外出身学生の県内就職を増やすためには、福島で生活する利便性やすばらしさ、仕事の楽しさを伝えていくことが大切と考える。	産業・雇用
8	県北地域	意見発表者	大学進学で県外に出た学生がUターンして戻ってきてもらうことも大切である。「福島若者人材確保事業」はよい取組であるが、高校卒業時からではなく、在学中からの取組も必要と考える。また、親御さんに対して正確な情報を発信することも大切である。	産業・雇用
9	県北地域	意見発表者	大学等の入学者を震災前の水準に戻すこと自体が人口減少対策と考える。そのためには、各大学の良さを高校生にPRすることが大切である。産学官連携によるキャリア支援、復興支援などの体験等により差別化を図り、大学、行政、地域が連携して新しい価値観を伝えていく必要がある。	産業・雇用
10	県北地域	意見発表者	経済的事情で必要な療育・教育を受けることができないお子さんがいる。学習支援や子ども食堂、入学する前の文具など本当に必要な方に必要なサービスが行き渡るようにすることが必要である。	結婚・出産・子育て
11	県北地域	審議会委員	オリンピック・パラリンピックは、今まで福島県に来たことのない外国人に来てもらい、元気な姿、大丈夫であることを実感していただくチャンスである。県と民間が協力して取り組んでほしい。	風評・風化
12	県北地域	審議会委員	総合計画について、地方創生・人口減少対策をベースとして復興創生なのか、地方創生のベースと同時に進めていくのか、論点整理が必要である。被災県として復興創生、それとも全国的な人口減少の中で、福島の場合、更に復興創生の課題があるのか。	その他
13	県中地域	意見発表者	「地域に来て欲しい」ではなく、「行ってみたい」と思わせるようなインパクトが大事。	地域づくり
14	県中地域	意見発表者	人口減少は止めようがないので、交流人口で少しでも賑わいを取り戻したい。	観光・交流
15	県中地域	意見発表者	グリーンツーリズムにも力を入れ、地域のファンを増やしたい。	観光・交流
16	県中地域	意見発表者	子ども達にも自分たちの地域を見つめ直してもらい、良い食べ物、良い環境を再発見して、発信していきたい。	地域づくり

17	県中地域	意見発表者	自治体のように大きな企業を誘致することも大事だが、小さな規模の企業を誘致したり、起業のお手伝いをする 것도大事。	産業・雇用
18	県中地域	意見発表者	子どもも大人も含め地域の人のレベルアップをしていかないといけない。	地域づくり
19	県中地域	意見発表者	仕事を作れる人の育成が必要。	産業・雇用
20	県中地域	意見発表者	人の流れについては、地域づくりへの取組が必要となるが、お金がないと食べていけないということもあり、地域づくりをしている人が事業に専念できる環境づくりも大事。	地域づくり
21	県中地域	意見発表者	子育て環境水準や教育水準が高ければ田舎でも移住したい人は多い。例えばレベルの高いプログラミング教育とか、何かプラスアルファでエッジを効かせないといけない。	定住
22	県中地域	意見発表者	建設業も担い手不足が問題。高校生や大学生になってからでは遅いので、小学生向けに体験学習会を国交省と実施し、将来の選択肢に加えていただく提案をしている。	インフラ復旧・整備
23	県中地域	意見発表者	ちなみに、岩手県と岩手県建設業青年部連絡協議会は、共同で、工業高校・大学の生徒を招いて、岩手建設未来フォーラムを開催している。福島県でもこのような優れた取組を取り入れていったら良いと思う。	インフラ復旧・整備
24	県中地域	意見発表者	移住定住について、地域は担い手を求めている。区費を払って、消防団に入って、ゴミ当番をやってくれる、というような地域活動してくれる人を求めており、こちらが求める像をしぼって、PRしていく時期が来ている。	定住
25	県中地域	意見発表者	空き家バンクは、県外から多く問い合わせがあり、すぐに住みたいという方もいらっしゃるが、地元の不便なところも知っていただいた上で、住んでいただくことが必要と思う。 短期滞在住宅などを使って、地元を良く知っていただくことが重要。	定住
26	県中地域	意見発表者	移住は、お金ありきで来てくださいという流れは、見直す時期に来ている。	定住
27	県中地域	意見発表者	移住フェアでは移住希望者の取り合いがあるが、地元で仕事がマッチングしない場合には、その人の希望にかなう市町村を紹介したり、その逆があったりという情報共有の仕組みが今後できてくるといい。	定住
28	県中地域	意見発表者	空き家バンクは、登録があっても大規模改修が必要だったりする。お金をかけて直すより、新築で住もうという人もいて、なかなか空き家の改修にはつながっていない。	定住
29	県中地域	意見発表者	空き家バンクは、色々と細かなトラブルがあることから、実際の市町村の実態の把握が大事で、不動産関係の専門家のお話を聞いたり、市町村間の情報交換をする場があったらいい。	定住
30	県中地域	意見発表者	多世代交流拠点は、すごく良い取組だが、赤字。補助金・助成金は使っているが、職員の人件費はペイできないので、こうした取組への総合的な公的支援があると良い。	地域づくり
31	県中地域	意見発表者	フリースクールは、学校へ働きかける上でも、市町村と関係したいが、「フリースクールはいらない」という市町村もあり、なかなか関係しにくい。制度上では出席扱いになるし、そういうところから社会につながっていくような支援をしたい。	教育
32	県中地域	意見発表者	グリーン・ツーリズムは、市町村単位での実施なら良いが、広域的に取りまとめるのは、範囲が広すぎて大変であり、引き続き県の支援を御願います。	観光・交流
33	県中地域	意見発表者	お金で人が集まるのではなく、街というのは魅力があって、人が集まって、コミュニティができて、という順番だと思うので、そこで「やりたいことができる」という情報の発信が重要。	地域づくり
34	県中地域	審議会委員	移住者のお話を聞いていると、教育と医療が充実していることが決め手。	定住

35	県中地域	審議会委員	私見だが、軽度の認知症の方を街中の空き家を利用して、ケアするというのはありではないか。	健康・医療・福祉
36	県中地域	審議会委員	障がい者の就労支援のジョブコーチが少ない。こうしたジョブコーチの養成は重要。	健康・医療・福祉
37	県中地域	審議会委員	外人が増えてくると、感染症の水際対策も大事になる。小さな子どものうちから感染症について学ぶことも大事。	健康・医療・福祉
38	県中地域	審議会委員	自分の住んでいるところの良いところを沢山見つけて、人との支え合い、思いやりの気持ち、優しい心を育てていくことが大事。	地域づくり
39	県南地域	意見発表者	小さいときから地域の魅力やそこで働く人の魅力について伝える事によって、地域の魅力を感じ、将来、帰ってきて自営業を継いでもらえる。	産業・雇用
40	県南地域	意見発表者	補助金を申請するときのハードルを下げるべき。商工会は補助金申請のサポートをしているが、更なるサポートが必要である。	産業・雇用
41	県南地域	意見発表者	商店は人手不足で一人で何役もしなくてはならないことから、人間的な支援体制を構築すべき。	産業・雇用
42	県南地域	意見発表者	田舎に来て何かやりたいという若い方はそこにいる人に魅力を感じている。取組の表現をビジュアル重視すると、共感して地域にくる若者が増える。	定住
43	県南地域	意見発表者	サポートを受けて移住してきても3年以内に出て行ってしまうケースがあると聞いている。移住してきてからのサポートも必要である。	定住
44	県南地域	意見発表者	移住だけでなく、地域を応援してくれる人を増やす活動も大事である。	定住
45	県南地域	意見発表者	常日頃、従業員の雇用を守ることを大事にしている。一人でも従業員をリストラすれば技術が継承できない、苦しいときに一緒に乗り切った従業員たちが今、幹部に育ってきている。	産業・雇用
46	県南地域	意見発表者	地元からも新入社員を採用しているが、離職率が高く困っている。	産業・雇用
47	県南地域	意見発表者	農業体験したいという方が増えてきているので、インターネット活用して、就農しやすいとか立地がよい等をもっとアピールすべき。また、PCがあればどこでも仕事ができる人たちに対して働きかけるべき。	農林水産業
48	県南地域	意見発表者	首都圏、特に新たに居住地を求めて来る60代以上の人をターゲットに呼び込める。首都圏の人たちは福島の立地の良さが分からない人が多い。手に届くところにこんな就農するのによい立地条件の場所があるということを積極的にPRすべき。	定住
49	県南地域	意見発表者	長男(家業を後継ぎする人)は青年会議所など交流の場があるが、次男三男は交流の場がないので、交流できる場を作る支援をすべき。	地域づくり
50	県南地域	意見発表者	子ども食堂は貧困層だけでなく、共働きで食事を作るのが大変な方々も受け入れるよう、会社や地域でそのような場づくりを推進すべき。	結婚・出産・子育て
51	県南地域	審議会委員	なんとと言っても大きな課題は人口対策以外にない。交流人口を増やす以外にないと思う。どうすれば交流人口が増えるのかみんな知恵を出し合うべき。	観光・交流
52	県南地域	審議会委員	補助金をもらうには、10枚も20枚も書類を書かなければならない。もう少し改善するべき。	その他

53	県南地域	審議会委員	来てという県のポスターについて発想の転換をして、福島県に行こうと思わせるような広報の仕方を考えた方が良い。	観光・交流
54	県南地域	審議会委員	2040年には186万人が2割減。では今の仕事をどのようにこなしていくか。県はITの優先順位を上げて、人が出来ることと機械が出来ること、それを十二分に階層別に種類別に整理して取り組んでいく事が重要。	産業・雇用
55	県南地域	審議会委員	情報発信について、ターゲットが不明確なので鮮明にして、より確実に福島に来てもらえるような仕組みづくりをしていく必要がある。	観光・交流
56	会津地域	意見発表者	小中学生のインターンシップの受入を行っているが、地元子どもたちが幼い頃から選択肢として地元企業を知る、学ぶということが重要であると考ええる。また、企業は地域に溶け込み、地域とともに成長することが必要である。	産業・雇用
57	会津地域	意見発表者	会津工業高校では、ものづくり授業をおこなったり、テクノアカデミー会津と連携した授業などを実施している。企業、教育機関、会津大学など連携した人材育成を進めることが重要と考える。	産業・雇用
58	会津地域	意見発表者	会津若松市AiCTの受け皿ができたので、地元雇用の拡大をさらに進めていければよい。	産業・雇用
59	会津地域	意見発表者	食は毎日のもの、そして、馴染みのもの。ある地域では、保育園から中学校まですべて給食無料化を進め、子育て負担軽減により、移住者が増加している。また、休耕地の活用も拡大している。	農林水産業
60	会津地域	意見発表者	CCRC(生涯活躍のまち)への取組みについて、大規模ではなく集落単位の分散型(10~20人程度)でできないか、デリバリーや移動販売、ITによる見える化など検討を進めている。	定住
61	会津地域	意見発表者	大学生や地域おこし協力隊など、若い人たちは新しいプロジェクトに関心が高い。	定住
62	会津地域	意見発表者	移住した地域では「明日を考える会」というもともと農業について話し合う月1回の会合に、移住者の若者たちを混ぜてくれて、自分たちの地域をどうしたいか、やりたいことはなにか、意見を聞いてくれて、実際に若者たちがやりたいことをやらせてくれる、そして教えてくれるシニアがいる。	定住
63	会津地域	意見発表者	移住者でも地域の行事(運動会、人足、祭りなど)に参加しているが、それを楽しんでいる。そして、その楽しさをSNSで発信している。	定住
64	会津地域	意見発表者	移住者としては、新しい風をどう届けられるかを考えている。	定住
65	会津地域	意見発表者	貧困、子ども食堂、子どもの居場所づくりなどは、民間でやれることであり、積極的に民間を巻き込んでほしい。	結婚・出産・子育て
66	会津地域	意見発表者	子育てをする人づくり、そして、子育てをする環境を支える人づくりが必要である。	結婚・出産・子育て
67	会津地域	意見発表者	土日も預けられる保育所は少なく、働いている人に限るといのがほとんどである。認可外保育には補助はないが、認可外保育で救われる人がたくさんいる。	結婚・出産・子育て
68	会津地域	意見発表者	保育士の人材不足が深刻であるが、こんなはずではなかったと理想と現実のギャップで務まらない若者が多い。	結婚・出産・子育て
69	会津地域	意見発表者	病児保育事業の推進とあるが、病児保育は病院(看護師)が担うべきで、保育士がこれ以上、人材不足になっては保育園の現場が回らない状況である。	結婚・出産・子育て
70	会津地域	意見発表者	高知県では県と市町村が半分ずつ予算を負担し、集落に活動費を預ける取組を行っている。自分たちで何に重点を置いて使うか決めることができる。	地域づくり
71	会津地域	意見発表者	柔軟で、具体的な実行性(実践的)な取組につながるような施策をお願いしたい。	地域づくり
72	会津地域	審議会委員	地域の魅力は外ではなくまずは中の子どもたちや若者たちに伝えることが大切と感じた。中にいると気づかないことも多いので、小さいうちから地域を知ることが大事である。	地域づくり
73	会津地域	審議会委員	地域づくりは自分ごととして捉えることが大切に思う。	地域づくり

74	会津地域	審議会委員	NPOは特定分野であるが、その不公平をたくさん集めると公平になるのではないかとも思う。ぜひ民間をもっと巻き込んでほしい。	地域づくり
75	会津地域	審議会委員	地域づくりはまずは人づくり。特に強い人材を作っていくことが必要であると感じた。地域づくりの活動者には格差、二極化が進んでおり、地域がその活動している人の壁にならないことが必要である。	地域づくり
76	会津地域	審議会委員	新しいことをやれる環境、やりたいことが叶う地域づくりが重要である。	地域づくり
77	会津地域	審議会委員	会津地域は暮らし方がまさに魅力であり、それを強みにした地域づくりを進めてほしい。	地域づくり
78	会津地域	審議会委員	企業としてももっと子育て、出産に支援すべきであると感じた。	結婚・出産・子育て
79	南会津地域	意見発表者	業界では就業人口が減っている課題があり、今後、地域のインフラを守っていくに当たって支障を来すのではないかな。	インフラ復旧・整備
80	南会津地域	意見発表者	協同組合方式をとって、地域の除雪などの維持管理を組織で行う「包括的維持管理」は、今後就業人口が大きく減ってくれば必要になってくる。	インフラ復旧・整備
81	南会津地域	意見発表者	最低限、建設業界が生き続けられる位の公共事業予算は確保していただきたい。	インフラ復旧・整備
82	南会津地域	意見発表者	WTO案件などの大きな公共工事が行われても、実際に工事に携わるのは大手ゼネコンとその下請けであり、地元業者は恩恵を受けにくい。	インフラ復旧・整備
83	南会津地域	意見発表者	県教委から示された高校の統合・再編方針では、地元の高校の受験に当たって倍率が上がり、これまで入学できた地元の生徒が入学できなくなることもあるのではないかな。	教育
84	南会津地域	意見発表者	行政・学校は子どもに対し、地元愛を醸成し、地元に戻ってきてほしいと考えているところだが、実際は働くところが少なく、収入も少ないため、保護者も子どもに地元に戻ってきて就職しなさいとはとても言えない状況にある。	教育
85	南会津地域	意見発表者	行政は定住促進プランなどを策定し取り組んでいるが、移住者の受入れに当たって、仕事や住まいの確保等の環境整備が十分でない。	定住
86	南会津地域	意見発表者	都会と比べると匿名性が低く、また都会との違いを言っても田舎はこんなものだから、と一蹴されることもあり、若い人の移住には課題が多い。	定住
87	南会津地域	意見発表者	人口減少に伴い、農業にあっては耕作放棄地が増えており、歯止めをかけるのが難しい。	農林水産業
88	南会津地域	意見発表者	様々な農作物に合った政策(補助メニュー)があれば、新規就農のよいきっかけになる。	農林水産業
89	南会津地域	意見発表者	農業体験や様々なイベントの開催などの支援により、定住に結び付けばよいが、受け入れるだけでなく、丁寧に不動産を紹介するなどのフォローが必要。	定住
90	南会津地域	意見発表者	働ける場は、職種によってはまだたくさんあり、例えばIT関係は、光通信回線さえあれば仕事ができるという話もあるので、うまくPRしていかなければならない。	産業・雇用
91	南会津地域	意見発表者	田舎暮らしに憧れを持っている人も多いが、一步踏み出すのはなかなか勇気が必要で、年をとってから環境が変わることは大変である。	定住
92	南会津地域	意見発表者	空き家と耕作地を無償で貸し付けて、滞在型の観光事業を行ってみてはどうか。	観光・交流
93	南会津地域	意見発表者	都会と比べて人間関係が密であることが息苦しく感じて、せつかく来てくれた方が去ってしまうのは残念なことであるので、住民の意識を変えることも必要。	定住
94	南会津地域	意見発表者	多くの観光客が訪れるようになり、合わせて移住者も増えた他地域の事例に、田舎暮らしのヒントがあるのではないかな。	定住
95	南会津地域	意見発表者	県内で学んだ学生を逃がさない取組が必要。	教育
96	南会津地域	意見発表者	ふくしま創生総合戦略の「4つの挑戦」に、子どもたちの教育の視点を入れてほしい。	教育
97	南会津地域	意見発表者	子どもたちが小さい頃から、地元にある産業、仕事について教えていかなければならない。	教育

98	南会津地域	意見発表者	これから海外に目を向けていくに当たり、英語が必要な場面は多々あるため、英語教育の重要性を強く打ち出してほしい。	教育
99	南会津地域	意見発表者	障がい者施設の雇用の場が少ない。	健康・医療・福祉
100	南会津地域	意見発表者	外からの違った目線をいかすなど、職場でも人材育成が必要。	産業・雇用
101	南会津地域	審議会委員	今までの対症療法だけではなかなか難しく、人口が減っていく中でどうしていくか考える発想の転換が必要。	その他
102	南会津地域	審議会委員	地域の給与水準が一般的に低い状況にある。	産業・雇用
103	南会津地域	審議会委員	意欲や目的意識を持った人の離職率は低い、自然が豊かで環境が良さそう、といったイメージだけで来る人は、なかなか定着しない。	定住
104	南会津地域	審議会委員	職業教育は早いうちからやっつけていかなくてはならない。	教育
105	南会津地域	審議会委員	確実に若者が戻ってくるような状況ではないため、地域の強みをしっかり把握した上で、外から人を呼び込むことが大切。	定住
106	南会津地域	審議会委員	「しごとづくり」は、いかに予算をこの地域にもってくるかではなく、これからは、新しい仕事をどうやってつくっていくかが重要。	産業・雇用
107	南会津地域	審議会委員	移住者の受入れに当たって、地域住民の意識を変えるのは易しいことではないが、マスコミや広域行政などがとっかかりを見つけてなんとか変えていく必要がある。	定住
108	南会津地域	審議会委員	密な人間関係は必ずしも悪いことばかりではなく、移住者が地元の暮らしになじむためには、世話を焼いてくれる地元の人たちというのは必要。	定住
109	南会津地域	審議会委員	人口が減少していく中、地域で生業としている仕事を維持しようとすると、取り合いになってしまうため、ある程度集約する必要がある。	産業・雇用
110	南会津地域	審議会委員	あらゆる機会を通じて、新たなネットワークをつくり、様々な情報交換など取組を広げていってほしい。	その他
111	南会津地域	意見発表者	外国人の就労については、建設業は、草刈りなどの比較的簡易な作業であっても資格が必要になるので、難しい面がある。	産業・雇用
112	相双地域	意見発表者	震災後に生まれた子供の方が、落ち着きがない。放課後児童クラブの仕事を通じて感じている。震災後のお母さんへのサポート不足が影響しているのでは、と思われる。県として何か支援があれば良い。	結婚・出産・子育て
113	相双地域	意見発表者	出産に至るまでの不妊外来や妊活へのサポートが必要。デリケートな内容なので相談窓口がほしい。	結婚・出産・子育て
114	相双地域	意見発表者	障がい児のお母さんへのサポートがほしいといった意見があるお母さんからあった。乳幼児の定期検診で、耳と目の検査は障がい児だと受け付けてくれなかったとのこと。また、出産後のケアも市町村の差があると感じるという意見もあった。	結婚・出産・子育て
115	相双地域	意見発表者	子供を支援する補助金などの助成がない。復興庁の「心の復興事業」の3年間の助成がなくなると自己資金でやっていくしかないが、厳しい。任意団体も助成対象になる基金があると良い。	結婚・出産・子育て
116	相双地域	意見発表者	子供はすぐに成長する。スピード感があると県民が感じられる子育て施策を希望する。魅力あふれるふくしまで子育てを支援していきたい。	結婚・出産・子育て
117	相双地域	意見発表者	地方創生とは単に人口を増やせば良いというものではないと考える。誰でもいいから住んで人口が増えれば良いというものではない。	地域づくり
118	相双地域	意見発表者	松川浦の観光は賠償金に依存している部分が大きい。一方で跡継ぎがない。	観光・交流
119	相双地域	意見発表者	仕事づくりに関しては、漁業に関しては権利関係の問題があり、新規参入が無理。賠償金に依存せず本気で働こうとする人たちが集まらないと本場の復興は進まない。	産業・雇用
120	相双地域	意見発表者	松川浦は立派な潮干狩りのスポットであると感じている。ヒトにおける人口密度のようにアサリにも密度がある。全国的にアサリの数が減っている中で、日本の中で松川浦は密度が高い。	観光・交流

121	相双地域	意見発表者	漁業の後継者が少ない。漁場を育てるための行政の支援をお願いしたい。	産業・雇用
122	相双地域	意見発表者	仕事づくりに関しては、大企業は地域に入っていきたいというニーズがある。しかしそこをうまくマッチングできていないという現状があると感じる。	産業・雇用
123	相双地域	意見発表者	人の流れについては、いきなり移住・定住は無理。交流人口や関係人口を増やしていくことからまず始めるべき。	定住
124	相双地域	意見発表者	移住や定住は、仕事を通して地域と関わるというケースが多い。ビジネスマッチングは切り口として良い。	産業・雇用
125	相双地域	意見発表者	補助金や助成金について要望がある。事業者が年度末の精算まで費用を立て替えるのは困難。概算払いができるように制度の改善をしてもらいたい。	その他
126	相双地域	意見発表者	まちづくりや仕事づくりにおいて、多様な人を調整する存在は大事。中間支援者やコーディネーターの人に支援・育成する制度があると良い。	地域づくり
127	相双地域	意見発表者	仕事づくりに関して、企業誘致でマッチングがうまくいかない。行政やまちづくり会社などの関係者がもう一步踏み出したいところ。	産業・雇用
128	相双地域	意見発表者	農業やりたいという人のニーズがある。しかし農地を所有したい企業にまちづくり公社では農地を提供できない。特区法などの制度を調べてもなかなか難しいことが分かった。もっと自由なことができればいいなという思いがある。	農林水産業
129	相双地域	意見発表者	まちづくりの担い手は役所、商工会、事業者などいろいろあるが、まちづくりの方向性が皆バラバラ。一本化する必要性を感じている。	地域づくり
130	相双地域	意見発表者	知識や技術は風評の問題が出ない。イノベーションコスト構想で生み出したものなどを浜通りから強力に発信していくのが大事と考える。	風評・風化
131	相双地域	意見発表者	根本的な問いとして、人口減少がいけないのか疑問。現代は右肩上がりの経済成長の時代と違う。	地域づくり
132	相双地域	意見発表者	仕事については起業も大事だが、子供たちが地元に戻ってくる仕組み・人材確保が有効に機能すれば良い。	産業・雇用
133	相双地域	意見発表者	移住はデメリットもある。移住に興味がある人には自分の体験を伝えている。都会的な生活を田舎に持ち込んでも無理。	定住
134	相双地域	意見発表者	起業促進やリノベーションまちづくりには興味があるが、現実には難しい。	地域づくり
135	相双地域	意見発表者	移住や起業は県や町のためにやるのではなく、本人の人生のためである。実際に移住・起業して感じるどころ。	定住
136	相双地域	意見発表者	かつて都会で建築に関わる仕事をしていて、移住を通して土地や建物と、人とのつながりの大切さを感じる。	地域づくり
137	相双地域	審議会委員	「なぜ人口減少が問題なのか」という問いに県が答えていく必要がある。行政から見た人口減少、企業から見た人口減少、地域住民から見た人口減少など、それぞれの立場から考えるべき問題である。	地域づくり
138	相双地域	審議会委員	最近では単なるI・U・Jターンだけでなく、お気に入りの各地域を回って暮らすOターンというものも増えている。従来からの定住対策だけでなく、関係人口を増やしていく対策が必要である。	定住
139	相双地域	審議会委員	ふるさとに帰れないけれども、避難先で暮らしているけれども、地元に着があるという人は一定数いるわけで、関係人口をどうやって増やしていくか、あるいは関係人口の測定方法など、福島県だからこそ開発して国に提案していくような必要性を感じた。	地域づくり
140	相双地域	審議会委員	仕事づくりについて言えば、単純な雇用のPRでなく、働きがいがあるかどうか。また、地域で自立していく人たちを応援していく必要があるし、コーディネーターする人の支援も必要。	産業・雇用
141	いわき地域	意見発表者	人口減少に歯止めをかけるには結婚と出産以外の道は存在しないため、若い世代に向けて啓発活動が必要だと思う。	結婚・出産・子育て

142	いわき地域	意見発表者	いわき市でも婚活パーティーなどは行っているが、いわき農業青年クラブ連絡協議会の中でも出会いの機会に恵まれない実態がある。もう少しその部分を手厚くしてもらえると子供の数が増え、地域社会に貢献できるのではないかと考える。	結婚・出産・子育て
143	いわき地域	意見発表者	いわき商工会議所青年部では、人口減少や高齢化という言葉自体がずれているという意見が出た。「若者減少化」といったことが問題で、若者の人口に特化して調査をすべきかと思っている。いわきで生まれた人が30歳くらいのときどのくらい残っているか、といったところの検証も大事ではないかと考える。	定住
144	いわき地域	意見発表者	一時的に市外、県外に大学や就職で行くのは仕方ない。最終的にいわきに戻ってきて、生産人口として30歳の人口が減らないことが必要なので、その部分を数値化できるとよい。 また、30歳の方が残るためには仕事が必要。就職支援については行政や商工会議所の役目だと考えられるため、関連する支援策の検討が必要。	産業・雇用
145	いわき地域	意見発表者	誇りを持てるまちを作らないとならない。福島県はどこを見ても同じ店しかなく、どこにでもある企業が多いので、個性のある企業やお店を誘致したり作ることが大事。最終的には町の個性を生み出すことが若者減少化を食い止めることになるのではないかと考えている。	地域づくり
146	いわき地域	意見発表者	いわき市は駅ビル、商業施設がない。車がないと生活しにくい印象。カーシェアなどの制度があると、都心から引っ越してくる方にとってはありがたいのではないかと考える。	地域づくり
147	いわき地域	意見発表者	結婚して子育てや出産を考えると、若者世代の助成金があるかどうかとも判断材料になる。調べればわかるが、移住してきたときにもう少し情報があるとわかりやすいのではないかと考える。	結婚・出産・子育て
148	いわき地域	意見発表者	育児をしながら働くことを考えると、共働き夫婦が増える中で、24時間の保育施設や休日でも利用できる保育施設などが必要だと考える。	結婚・出産・子育て
149	いわき地域	意見発表者	看護師など医療専門職の資格取得や大学院について、一定期間いわき市内の医療機関で働いたら助成金の返済をしなくてもよいといった制度があると県内や県外から人材が集まるのではないかと考える。	健康・医療・福祉
150	いわき地域	意見発表者	人口減少には、定住人口、交流人口をどう上げるかといったことが重要。小名浜は海から人が来る町。海があることで他の地域から魅力的に見えることがある。交流人口が大きくなればそれをベースにしたビジネスが生まれる。自分たちが住みたい町を追及して実現することが定住人口の増加につながるのではないかと考える。	定住
151	いわき地域	意見発表者	公共交通機関が便利な形で提供されていることが不可欠。生活の足がたくさんできると住みやすい町に近づくのではないかと。どの家庭においても高齢の方を抱える時代になるため、公共交通機関の整備はとりわけ大事と考えられる。	インフラ復旧・整備
152	いわき地域	意見発表者	人口がいくらであればよいのかといったことは考えていかなければならない。ドイツは人口に対して国土面積は広く、生産性が高い。人口減少は大きな課題だが、日本でもバランスの取れた人口減少対策が展開されるべきと考えている。	地域づくり
153	いわき地域	意見発表者	いわきには医療創生大学があるので、大学生の就職の場の拡大を行うことが重要。大学卒業後に地元に残る若い世代を残すことが必要だと思う。そのために企業誘致や魅力ある町にしていくかで大学生が残ることにつながるのでは。	産業・雇用
154	いわき地域	意見発表者	県外から来る子育て世代については、魅力あるまちづくりと移住に関する補助が必要。保育園などの費用負担を含め、県外から来る人へのサポートの充実が必要ではないかと。	結婚・出産・子育て
155	いわき地域	意見発表者	漁業が魅力ある産業となるため、若い漁業者が着業、定着できるよう、資源管理型漁業を徹底し、効率的に漁獲しながら、朝市や地元料理教室など地域の人々との交流を深め、活気ある漁業地域を取り戻せたらよいと考える。	産業・雇用

156	いわき地域	意見発表者	高齢者も一つの地域資源という考え方をすると、高齢者にも若者が住みやすいように活動してもらおう場があるといいと考える。例えば、高齢者による託児所等、行政や商工会議所は資金や制度面で支えてあげられれば、高齢者も気持ちよく活躍できるのではないかと考える。	産業・雇用
157	いわき地域	審議会委員	学童保育について、支援員さんの負担の軽減や人材不足を補うため、小学校高学年の児童のエネルギーを活用し、高学年の児童は低学年の児童の面倒を見るといったような循環型の仕組みを確立していければよいのではないかと考える。	結婚・出産・子育て
158	いわき地域	審議会委員	人口減少に関して、悪いかどうかよりもどのような減り方をしているか、どう問題意識を持っているかを整理していくことが大事。出生率の低下については、出産をする上での支援、移住者については、魅力をどう伝えていくかが必要だと感じた。	結婚・出産・子育て
159	いわき地域	審議会委員	子供が意見を言ってそれが実現されるまちならば若者はまちを出ていかない。また一度出て行っても戻ってくる。子供がその場で育っていくための支援を充実させていくことが有効。	結婚・出産・子育て
160	いわき地域	審議会委員	高齢者のノウハウを生かすことや、いわき市を選んできてくれた多様な文化を持つ人たちの情報も生かす仕組みづくりをしていくことも重要だと感じる。	地域づくり